

# 鎌倉 雑 感

2010年6月5日

同窓会会員：鯉沼正弘

北鎌倉駅前に到着すると、既に年配グループ、若い人のグループがザックを背負い集まっていた。今日も鎌倉の街は人々で賑わうだろう。

歩き始める前に、自己紹介させていただきます。5年ほど前から運動不足気味のため「NPO町田ウォーキング協会」に加入、主に多摩の里山を中心に歩き続けているところです。歩いた距離の累計は延1,420kmになっています。延2,000kmになったら協会本部で認定してもらおう予定です。運動の効果は、なんと言っても体重・血糖値が低下したことです。



さて、鎌倉には何回か来ましたが、ザックを背負って来たのは初めてです。早春から初夏にかけてのハイキングの醍醐味は、何といても木々の青葉が天空に向かって伸びやかに成長している姿、木々の間を吹き抜ける風、野鳥のサエズリ、何ともいえない爽快感、病み付きになっています。

久しぶりで同窓生にお会いしてそれぞれが思い思いに歓談を重ねる、大変良いことだと思っています。出会いの場を続けていただきたい。

## 鎌倉の沿革

鎌倉は「我妻鏡」よると鎌倉の四境は1224年には六浦、小壺、稲村、山内であり1235年には稲村が固瀬川に延びている。これらに囲まれた地域を鎌倉とするのが一般的の呼び名(世界大百科事典 平凡社) 鎌倉五山第一・建長寺 第二・円覚寺 第三・寿福寺 第四・浄智寺 第五・浄妙寺浄智寺 創建されたのが13世紀、当地鎌倉は北条氏の勢力が盛大で禅宗の最も栄えた時期と寺史が伝えている。

戦国時代から江戸時代に入ると鎌倉は農漁村になって寂れ、寺院の多くも次第に繁栄を失っていった。浄智寺が建つ山の内地区は北条氏の所領であったので今でも禅刹が多い。

どの寺院も丘を背負い鎌倉では谷戸と呼ぶ谷合に堂宇を並べている。全域が昭和43年3月史跡に指定された。

古き鎌倉時代の人々の生活を思い、振り返って現代の生活などを考えるのも一興ではないでしょうか。

以上

# 鎌倉ハイキング写真集

撮影：岡本 興和





